

ロキソプロフェン、イブプロフェン

などの非ステロイド性抗炎症薬 NSAIDs の

妊婦、産婦、授乳婦等への投与に関する厚労省指導下の製薬会社添付文

- 1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。 <妊娠末期以外の妊婦さんには投与可能ということ>
- 2)妊娠末期(妊娠 28~39 週)の人には投与しないこと。 <妊娠予定日 12 週以内は禁忌という意味>
- 3)妊娠末期のラットに投与し、胎児の動脈管収縮が報告されている。 <死産の可能性を示唆>
- 4)授乳中の人に投与することを避け、やむをえず投与する場合には授乳を中止させること。

アセトアミノフェン(非 NSAID)の場合 上記2)の記載はありませんが、3)の記載があります。よって、**妊娠後期の使用は容認**されていますが、服用しないに越したことはありません。服用の必要な疾患に罹患しないよう、細心の注意を払ってください。

当院では事前に妊娠情報を提供いただいた妊婦さんには NSAIDs を処方しません。妊婦さんの当院への妊娠の事前情報提供は妊婦さんの責務です。ただし、妊娠適齢期の女性には、事前情報提供がなくとも通常は処方しておりません。ただコロナなどの影響でアセトアミノフェンの供給不足の時期は例外的にアセトアミノフェンとイブプロフェンを半々で処方せざるを得ません。

※去痰剤(痰切り)、鼻水の薬(抗ヒスタミン薬)、鎮咳剤(咳止め)、などは授乳婦以外ほぼ安全です。トラネキサム酸は血栓危惧例以外は安全です。

※※妊娠時は、過去に処方された自宅保存薬、妊娠告知せずに処方を受けた薬、市販薬の服用は避けるべきです。仮にどうしても服用したい場合は、まず**処方医、かかり付け産科医**にご相談いただくか、**信頼できる情報**ソースなどでよく検討し、安全性を確認し、服用することをお勧めします。お手持ちの薬についての質問には、意見としてお答えはしますが、他院処方薬、市販薬局に関しては、**当院での責任は負いかねます**ので、お察し願います。